

医療保険改悪案の狙い

小池副委員長に聞く

安倍内閣が今国会で成立をねらっている医療保険制度改悪法案について、日本共産党の小池晃副委員長（政策委員長）に聞きました。

医療費抑制進める仕組み

第1の問題は、国民健康保険について制度発足以来の大改悪を行い、医療費削減の仕組みをつくることです。

国保の財政運営が市町村から都道府県に移管されます。保険料の額は引き続き市町村が決めますが、都道府県が「標準保険料率」を示すことになります。これまで住民の運動や日本共産党の論戦で一般会計からの繰り入れで保険料を軽減させてきました。今後は、標準保険料率をもとに繰り入れをやめさせる指導が行われ、保険料の値上げや取り立て、保険証取り上げなどがいつそう強まります。

自治体の要求に押されて国は3400億円の公費を投入することになりました。これと引き換えに、今後市町村による繰り入れをやめさせる圧力も働いてくることは必至です。

さらに、国保の「都道府県化」と、都道府県が策定する「地域

医療ビジョン」、「医療費適正化計画」の三つをセットにして都道府県主導で医療費を削減していくことです。

都道府県は、地域医療ビジョンで医療の提供計画を立てて病床削減を行わせるとともに、医療費適正化計画で医療費の削減目標を立てます。ここに国保運営の権限が加わり、医療費抑制を推進していく仕組みです。ある自民党議員は「ここまでくれば、次はキャップ制」だと語っています。都道府県ごとに医療費の上限を決めて、その範囲内に抑え込んでいくねらいです。

「老いも若きも負担増」に

第2は、「老いも若きも負担増」です。後期高齢者医療制度の保険料の特例軽減を政令によって廃止します。特例軽減は、後期高齢者医療を導入するとき反対世論に押されてつくられました。対象者は加入者の半分を超える865万人。廃止されると一挙に2倍から10倍もの負担増になります。

一般病床や療養病床の65歳以下の入院時の食事代を1食260円から460円に引き上げます。1カ月入院すると1万8千円の値上げです。

入院食事は治療の一環であり、負担増を押し付けることは大問題です。このほかにも紹介状なしで大病院を受診する際、5000円〜1万円の定額負担を義務化することや、国保組合への補助金削減などもねらわれています。

混合診療の全面解禁に道

第3は、「患者申し出療養制度」の導入です。

保険診療と保険外診療を併用する「混合診療」は原則禁止されています。だれもが必要な医療を受けられるようにする国民皆保険制度に反するからです。

これを財界は「岩盤規制」と攻撃、安倍首相も「ドリルになって壊す」といつてきました。当初案では、医師と患者が合意さえすればどんな治療もできるとしていましたが、医療関係者の反対もあつて、一定の機能の病院に限定し、安全性も一応審査することになりました。

しかし、審査期間は現行の6カ月から6週間、前例がある場合は2週間に大幅短縮されます。安全性が不確かな医療が

出回ることや、事故の責任を患者に負わせる危険性も指摘されています。混合診療の全面解禁はきっぱり断念し、必要性・有効性が確認された医療は保険適用し、国民皆保険制度を拡充させていくことこそ必要です。

「小泉路線」復活

日本医師会が小泉政権の医療政策を総括した時、給付費抑制、家計負担増、官によるコントロール、規制緩和による民間企業への利益誘導―を特徴にあげていました。まさに小泉政権時代の医療「改革」路線が、安倍内閣で完全復活・強化されようとしているのです。

暮らしを壊す消費税ではなく、応能負担の原則にたった税制改革と、国民の所得を増やす経済改革を行えば、医療改悪を中止し、安心できる医療制度をつくる財源は生まれます。

医療破壊を許さない国民的な共同を広げ、改悪法案阻止、国民本位の医療制度改革に全力をあげる決意です。

2015年3月30日(月)

志位委員長が
公明デマに反撃
軽減税率をいう前に
消費税10%をやめよ

日本共産党の志位和夫委員長は3日、川崎市川崎区の訴えのなかで、公明党の山口那津男代表が演説で“消費税10%はやむをえないが、そこに向けて軽減税率を準備している。消費税や軽減税率に反対だと叫ぶ共産党に政治は任せられない”とのべたことに言及し、「ウソです。共産党は消費税にもちろん反対です。しかし、軽減税率は、食料品非課税など一貫して要求しています。『反対している』というデマを飛ばすのはやめていただきたい」と語りました。

このなかで志位氏は、「私たちが反対しているのは、消費税を10%にあげることです。『低所得者対策』というなら、軽減税率と言う前に（消費税）10%をやめたらいいじゃないですか。この川崎の大事な議席。自民・公明・民主、増税を進めた“増税3兄弟”にわたすわけにいきません」と訴えました。

2015年4月5日(日)

2015, 04, 07 NO, 704
日本共産党
磯城郡議員団だより

芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
川西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415
吉田 容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446
森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570
(事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

水仙の花束

先日、町内に住む友人が、「用があつて桜井市まで行きたいのだが、あいにく車の運転が出来る家族が留守なので送迎して貰えませんか」と頼まれました。丁度私も都合がついたので、咲き誇る桜を見ながらのドライブとなりました。

翌日、その友人は両手で握る程の水仙の花束を持ってお札に来て下さいました。こんなに沢山の水仙は見たことがなく、花瓶に生けると部屋中、とてもいい香りに包まれ、蕾みも多くあり次々に花を開いて楽しませてくれます。携帯電話で写真を撮り、親友に送ると直ぐに「凄いな！有難う！」

とメールが来ました。幸せの御裾分けです。

普段は余り花を買うこともないけど、こうして心のこもった花束を頂き幸せの輪が広がり、本当に心が豊かになりました。ちなみに本町の町花は「水仙」です。

水仙は「うぬぼれ、自己愛、エゴイズム」と、余り嬉しくない花言葉ですが、白と黄色の清楚な姿でまっすぐ伸び、香り高く、凛としている水仙の様にこの田原本町のまちづくりをして行きたいものだと思

いました。
田原本議会
議員
森良子



県道大和高田

桜井線拡幅

三月議会で、阪手交差点から金沢に向かう道路の拡幅計画等について質しました。

これまで、中学生・高校生達が、バドミントンの大会に行く際、道路にはみ出して歩いていくことが大変危険、早急に歩道を確保するよう求めました。その結果、県の対応は、道路の南側の用地購入を進めていることが明らかにりました。ただし、拡幅される部分

大安寺交差点から西は、

歩道は道路の北側に設けられます。ところが、大安寺交差点から東は、道路の南側についています。これでは、バドミントン大会に何百人という子どもたちが、道路にはみ出さずに中央体育館まで歩いていくことはできません。

そこで、昨年一二月議会で、町長が「曲がった道路を作ることはできません」と明言された経緯がありましたので、まっすぐ歩ける道にするよう強く求めました。

田原本議

会議員

吉田容工



前立腺がん検診

前立腺がん検診を今年度から補助を出して行うことが三宅町広報（緑の風に乗って）町長コラム（）に掲載されています。町広報には医療費助成事業として（小学卒業までの通院費の助成・8月より実施）、女性のがん検診補助に加え新規に男性の前立腺がん検診補助を行うとのこと。

予算額は解りませんが、三宅町には50歳以上の男性が1600人余りおられます。前立腺がんは男性の80%の方がかかりやすいと言われています。血液のPSAを検査すれば前立腺がんの80%から90%が早期発見できると言われております。議員の時に集団検診の項目に入れられないかを質問してきました。

現在、厚労省の検査項目には入って居りませんが、奈良県でもすでに橿原市などでは助成事業として昨年から実施されています。女性には乳がん

検診、子宮がん検診が集団検診時に行われているのに男性の前立腺がんの血液検査が行われていません。「20年後には前立腺がん死亡率が第一位になるのではないか」とある医師は言っておられました。

三宅町では50歳以上で、個人負担は3000円。国保病院の泌尿器科で検査してもらうことになるとしています。橿原市では個人負担1000円となつています。もっと低額で受診できるように改善していく必要があります。三宅町 池田年夫

心配で心配で

やっぱり桜の時期はほんの一瞬で過ぎてしまいますね。春の訪れは様々に感じる事が出て来ますが、私が桜で感じてるのは、気温の上昇です。皆さんは、暖かいから暑いと感じ始めるのが桜の開花と共に訪れているように感じはりませんか？

さて、先週もちらつと書きましたが、今、安倍晋三首相の戦争する国づくりに対して、「この暴走はただ事ではないですな」、「これはひどい」、「もう心配で心配で、何とかして止めてほしいですねん」等々、とにかく暮らしの問題もさることながら、自衛隊が実際の戦場へ出て行く仕組みづくりに対してい

皆さんが、安倍さんの行いに警戒の念を抱いておられる事がひしひしと伝わって来る毎日が続いています。

とにかく、今月の統一地方選挙が終わった後、連休明けから一氣に一連の法案を国会に提出する段取りが組まれているようですので、こうした声上がるのも当然ですし、その可否が問われています。

党を創つて九十二年、首尾一貫して国民主権と反戦平和を唱えている日本共産党の議席の優劣が情勢を大きく左右する事は間違いありません。暴走政治ノーの審判を一緒に下しましょう。

川西町議会
議員
芝和也

